

## 特集「子育て支援 NP プログラム」

### 運営スタッフの立場から NP を行なってみての感想

田 中 良 枝<sup>1</sup>

ノーバディズ パーフェクト プログラム(以下 NP と略記)運営スタッフとしての仕事の内容や気づきを、以下の3点にまとめてみる。

#### 1.運営スタッフの仕事の半日の流れ

- ・大人の託児スタッフ用の駐車場の確保
- ・大人の託児スタッフ、大学院生託児スタッフ(学生ボランティア)の受け入れ
- ・大学院生託児スタッフ(学生ボランティア)のプレイルームからのおもちゃの移動のお手伝い
- ・託児の受け入れのための受付会場の用意
- ・参加者の受け入れ
- ・欠席や遅刻の連絡を受けるとファシリテーターや託児スタッフに連絡  
(NP が終わると、順番が逆に収まっていく)

#### 2.運営スタッフとして心がけていたこと

センター長が『まるでホテルマンのような』と称した対応を心掛けていた。それは具体的にいうと、参加者を満面の笑みでお迎えし、乳幼児を連れていらっしゃる参加者の荷物はどうしても多くなるのでそれをお持ちして、混まないように3か所用意した受付会場にご案内し、受付後は託児のお部屋にご案内を、そしてドアを開けて〈いってらっしゃいませ〉とお送りするといった一連の行動をさす。NP のファシリテーター養成講座でトレーナーから「空のポットからはお茶は注げない」と言われたが、この一連の行動は、温かい満杯のポットから参加者のカップを満たすものではないかと思えるのである。NP プログラムで内面を満たされて、ホテルマンに扱われるように外側からも手厚く満たされたのではないだろうか。

#### 3.アンケート結果で「非常に満足」度 No.1 だった理由は

NP プログラムの全6回終了時に、心理教育相談センターはアンケートで参加者に以下の7項目に対する満足度についてたずねた。①NP プログラム、②ファシリテーター、③大人の託児スタッフ、④大学院生託児スタッフ(学生ボランティア)、⑤運営スタッフ(実行委員)、⑥NP プログラム開催日時、⑦心理教育相談センターの設備・空調等である。その結果、「非常に満足」度が一番高かったのは⑤運営スタッフ(実行委員)に対する満足度で87%であった。

何が「非常に満足」と思っていたか要因になったかを考えてみると、『大切にされる体験』がキーワードなのではないかと思われる。今回の参加者はNP が平日の午前中に行なわれたということもあり、専業主婦の方が大半を占めていた。家にいてパートナーの世話をし、子どもの面倒を見、ご自身がケアされることはあまりないのではないだろうか。いわば乳幼児をホー

---

<sup>1</sup> 広島文教女子大学大学院研修生、元広島文教女子大学心理教育相談センター相談員

ルディングしている参加者を運営スタッフがホールディングしている感じである。また、運営スタッフは初回から天候がみぞれで、参加者を心から〈よく来てくださったなあ〉という気持ちでお迎えしたということもあり、歓迎されているという雰囲気が十分にあったのではないだろうか。そしてファシリテーターのように内面の問題を扱わないので、感じのいい人のままでプログラムを終えることができたことも要因の一つであろう。

NPプログラムは今回のように募集地域を絞ることで、参加者が実際に住んでいる物理的距離も心理的距離もちょうどいい仲間を作ることができて、参加者の主体的なグループへと発展していった。それは育児不安を少なくしてくれるものだろうし、仲間がいるという安心感、そういう仲間を作ることができたという自己肯定感につながっているだろう。

運営スタッフとしては大掛かりなイベントということで大変さを感じたこともあったが、託児スタッフの楽しかったというお話や、なにより参加者のいきいきしたお顔を拝見したことで、たくさんかわった分、喜びもひとしおだと思えるのである。